

『指導救命士としての取り組みと今後の課題』

	都道府県名	愛媛県
	所 属	伊予消防等事務組合消防本部
	氏 名	本川 友一
	職名・階級	消防本部警防課 主幹・消防司令
	指導救命士養成研修 受講時期	平成 26 年度 指導救命士養成研修 第 1 期 修了

【指導救命士運用要綱の制定と取り組み】

平成 26 年度第 1 期指導救命士養成研修を修了し、私が最初に着手したのは、『指導救命士運用要綱』の策定です。まずは、所属での指導救命士としての立場と業務を確立するとともに、消防長任命資格とすることにより、私に続く救命士にも指導救命士は何をすべきなのかを明確にしておく必要があると考えました。また、指導救命士としての認知と職責の自覚を高めるため、明示章（ワッペン）を作成することにしました。当消防本部は、1 本部 3 署 3 出張所体制ですが、当初の計画のとおり、現在は警防課 1 名、各署 1 名の計 4 名の指導救命士を配置しています。これにより、消防本部単位での各種訓練計画及び検証、評価等については、警防課指導救命士が担い、年間教育計画に基づいた救急技術指導や事後検証等については、各署の指導救命士が担っています。

【学べる場の環境提供】

私が指導救命士として最も心掛けているのは、『学べる場の環境提供』です。具体的には、①訓練を意欲的に行える職場環境と資器材の整備、②検証医師を招いての現場に反映できる検証訓練会の提供、③再教育の見直しと生涯教育の実施計画策定、④救急業務規程等の改定、見直しなどですが、これらの中から、当消防本部が実施している、検証医師を招いての救急訓練検証会の内容についてご紹介します。本検証会は、本年度で 4 年目となります。訓練想定の内容については、指導救命士が事前に検証医師に提出し、傷病者の容態変化のタイミングや症状、バイタルサイン等について助言やアドバイスをいただくことで、指導救命士にとっても学びの場となっています。また、より実りある検証訓練会とするため、訓練毎に参加者全員からアンケート調査を実施して改善を図ってきました。また、この訓練では、

私が最も重要と考えるFBに力を注いでいます。訓練後の検証会は、参加者（実施隊・見学者）を3～4班（1班10名程度）のテーブルに分け、各班で実施隊の迅速性・正確性・協調性・他隊連携等について、グループディスカッションさせながら用紙に書き込んでもらい、各班の代表者がホワイトボードに張り付けて発表し、必要に応じ、活動隊を撮影したビデオを見ながら確認するという方法としています。想定を付与した指導救命士は、活動のポイントとなる部分や観察、処置内容について具体的にFBし、最後に検証医師より医学的観点からの助言、指導をいただいています。この方法で検証会を行うことにより、参加者から積極的な意見が出やすくなった他、医師及び指導救命士からの一方的なティーチングとならず、建設的なFB検証会となっています。そして、何よりも他隊が訓練を行っている間、自分ならどうするのか？ということをお互いに真剣に考える学びの場となっています。

平成26年4月の救命士処置範囲拡大に伴い、これまで以上に現場で処置をすべきか、早期搬送を優先すべきかの判断が必要となっています。救命士の任務は、適切な観察・処置を施し、適応する医療機関へ生命危険を回避しながら搬送することですから、今後は、心停止前傷病者の「観察」・「鑑別」能力の向上を目指した訓練と検証が必要不可欠だと考えています。



（訓練後の事後検証会の様子）

【最後に】

我々指導救命士は、病院前救護のスペシャリストを育成することも重要な役割の一つですが、我々自身が常に高い意識を持って継続的な学習に努め、他の救命士の模範となるような、豊富な知識と高いスキルを身に付けておく必要がありますし、地域のMC医師と顔の見える関係を構築しておくことも重要な役割の一つだと考えます。我々指導救命士は、常に他の救命士、救急隊員から背中を見られているという意識を持つとともに、今後も病院前救護の質の向上を目指し、信念を持って救急隊員の育成を担っていく所存です。